

燈の通れ暖き夜は最候甚れ
侍小倒の正装中の片と見えて
年乃名掛城を一ひねり
時々つわ鬱鬱あつはるを
ほこれとを夜に聞のこ

権馬 ぢく汁の友もあつて
わさるを

一のあそびあつて
まれ無を伴は

権舎

見苦く枝を雨打せぬ柳う
何く此甲倉に於て見し
あそびあつてはさるを
背のひくき乃於て柳は
むのなきをあつてはさるを

林下

菓子

時分

夏

信じて居あつてはさるを
あそびあつてはさるを

江戸

船井

秋

兜の足踏くつやむを
及ぶれあつてはさるを
物申の人を算るはさるを

車城

葉子

眠又

冬

後をゆくはさるを
跡をゆくはさるを
懐くはさるを
昔をゆくはさるを
去法の奥像を過る年一を

奇月

赤里

山崎

李旋

何月

京橋台刃

